

ゴースト？

かつて読んだコラムに「6月の雨がうっとうしい時期に、海外からの客を招き入れた。ガラス窓越しに外の雨を眺める彼女は不思議そうな表情を浮かべながら私に「ゴースト？」と尋ねた。ガラス窓には、娘の作ったてるてるぼうずがセロテープで貼られていた。」日本では当たり前で、晴天を招いてくれる“てるてるぼうず”は、海外の人に言わせれば“ゴースト”すなわち幽霊に見えてしまうのですね。海外にてるてるぼうずのような風習はなさそうです。そんなてるてるぼうずが、5月31日（土）運動会の、晴れを祈って、職員室の入口につるされています。雨のち曇り予報が気になります。



28日（水）の運動会予行は気温が高く、晴天の下で行えました。プログラム順に、整列や入退場の方法について確認しました。選手の動きもさることながら、係生徒の動きの確認が重要となる予行。目まぐるしく進む種目に係の生徒が激しく動き回りました。



各種目について、距離や時間を短くする、1レースのみ行う、という形で取り組みました。それでも、



生徒席からは声援が飛び交い、大縄跳びや2人3脚も盛り上がりました。選手の活躍を裏方である係生徒が支える、選手の頑張りに仲間が声援を送る。科学が進化しようとも、こういった人とのつながりは消えることはありません。選手と係生徒が2人3脚で運動会を盛り上げます。



晴れを願って、てるてるぼうずをつるす風習は、古からみやくみやくと受け継がれてきた習慣です。風習はその土地土地に存在します。その土地の人と人をつないできたのではないのでしょうか。

清瀬中には80年近くの歴史があります。80年間、どんな運動会をつないできたのか、どんな盛り上がりをつないできたのか。どのように人をつないできたのか。これからを担う私たちに、入口の“てるてるぼうず”がそう語り掛け、何かを教えてくれているような気がしました。

生徒全員331人332脚で盛り上げ、つながります。

追伸

つながりを語り掛け、教えてくれる風習を、海外に“tell tell BOUZU”と紹介するのはどうでしょう。